

環境とつながる造形

～小・中学校の連続性を考慮し、
生涯にわたり美術を愛好する心情を育てる授業づくり
を通して～

東京都 八王子市立柵田中学校
主任教諭 畠山 真理

題材設定について

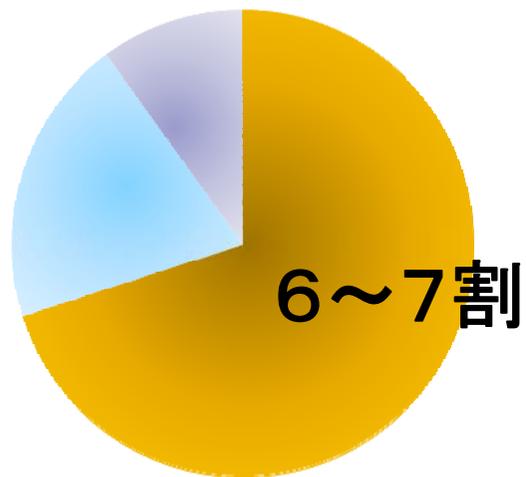
平成24年度
東京都教育研究員

～小・中学校の連続性を考慮し、
生涯にわたり美術を愛好する心情を
育てる授業づくり～

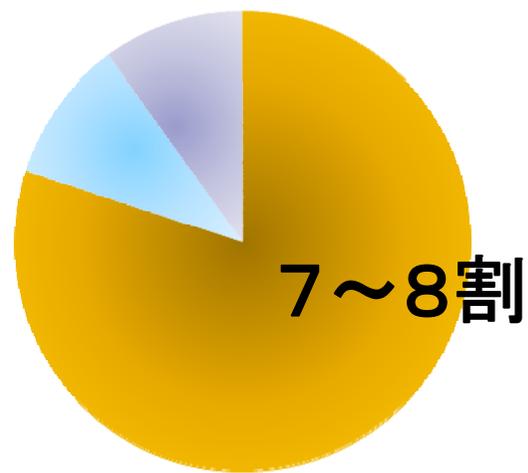
研究主題設定の理由

平成21年度国立政策研究所の調査

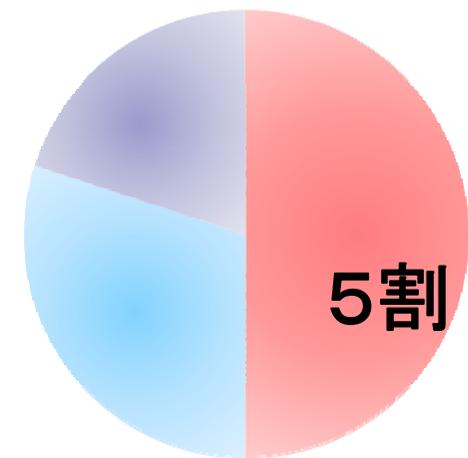
美術の学習に
関する生徒の意識



■ 美術の学習が好き・大切だと思う



■ 美術の学習は生活や心を豊かにするのに役立つ

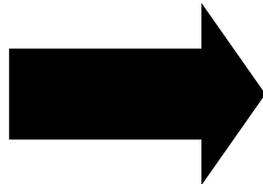


■ 普段や将来の生活、社会に出て美術が役立つ

研究主題設定の理由

調査結果から...

生徒の意識



多くの生徒は
肯定的な
意見



半数の生徒は
普段の生活や社会
に出て役立つという意識
をもっていない

研究主題設定の理由



美術は普段の生活や
社会に不可欠

研究主題設定の理由

義務教育修了を節目に中学校美術は最後の学びの場となる

美術が私達の
生活に役立つと
感じる生徒を育
てる



生涯にわたり
美術を愛好する
心情を育てる

研究主題設定の理由

小学校図画工作科と中学校美術科の目標は同じ

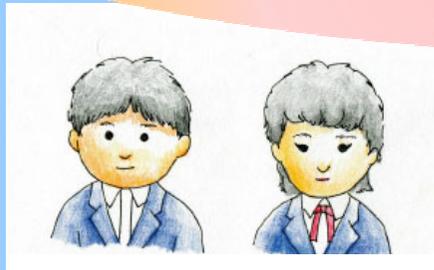
義務教育9年間の連続性に配慮する



生涯にわたり美術を
愛好する心情を育む

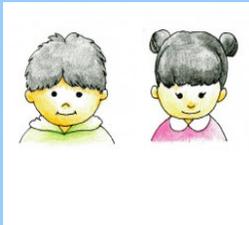
研究主題設定の理由

生徒が大人になっても
美術が自分達の生活に
役立つと考えられるように



中学校美術科で
育成する資質や能力

美術を愛好する心情を育てる授業



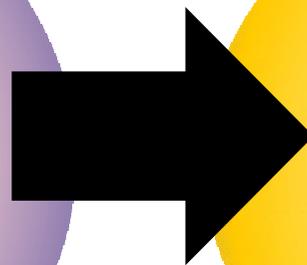
小学校図画工作科で
培われた資質や能力

研究の視点

1 小・中学校の連続性に考慮する

小学校図画工作科で身に付けた
資質や能力を中学校美術科でより深める

小学校図画工
作科で育まれ
た資質や能力
を把握



資質や能力を
系統的に捉え
て授業の指導
案を作成

研究の視点

2 生涯にわたり美術を 愛好する心情を育てる

- ・自然や生活の中での美しいものや美術の文化遺産、作品を大切にすること
- ・日常生活の中での美術の働きについて理解し、積極的に美術の楽しさを取り入れて、生活を豊かにすること。意欲や創造性を育てる。

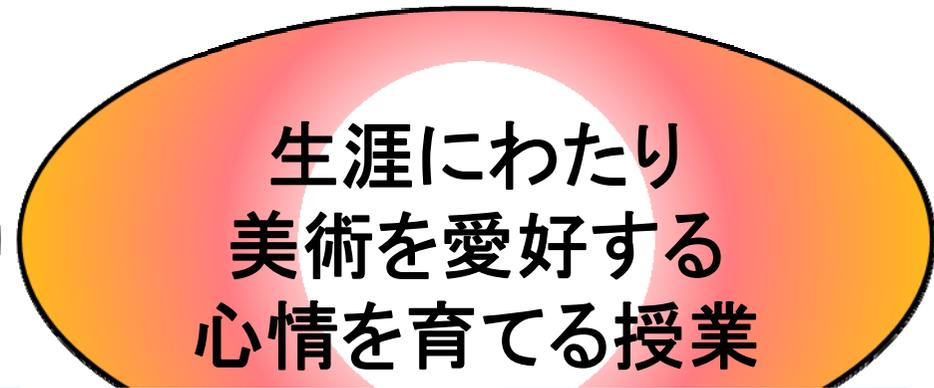
表現

鑑賞





- 図画工作科で身に付けた力
→ 美術科で伸ばす力
- 身につけた力の連続性



- 美術科が日常生活の中で
果たす役割を理解する
- 心豊かな生活に結びつく意欲や
態度を育てる

指導案の工夫

「題材観・指導観」、「指導上の留意点」
に2つの視点で具体的な指導の工夫を記述

研究の仮説

目指す生徒の姿

- 美しいものを大切にし、生活の中で美術の表現や鑑賞に親しもうとする姿
- 生活環境を美しく飾り、構成し、心豊かな生活を築こうとする姿
- 自然のもつ造形的な美しさや美術の文化遺産、作品のよさや美しさを積極的に味わおうとする姿

「人にとって心地のよい環境をつくろう」

～住まい・自然を含む

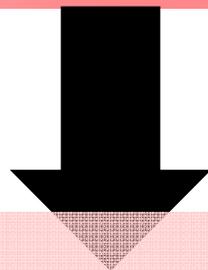
心地よい住環境のモデル制作～

身につけさせたい資質や能力

- 1 心豊かな生活を創造していく意欲や態度
- 2 住む人の気持ち機能、美しさを考えて
発想や構想を練る能力
- 3 素材の特徴を生かして心豊かな
生活環境を表現する力
- 4 生活を美しく豊かにする美術の働きについて
理解することで生涯美術を愛好していく心情

導入で鑑賞

身近な自然や生活環境が
心地よいと感じるために…



生活を豊かにする
美術の働きを理解する

(光) (空間)

発想の工夫

エスキースカードの使用

- ① 目標の確認
- ② 計画の確認

見通しをもつ

テーマを明らかにする

発想の工夫

① 題材の目標や計画を知り、
制作に見通しをもつ

「心地のよい住環境をつくろう」
～住まい・自然を含む心地よい住環境のモデル制作～
エスキースカード
2年 2 組 36 番 氏名

| | |
|-----|--|
| 目 標 | (意欲・関心) 身の回りの環境の美しさを味わい、心豊かな環境をつくることを楽しもう。 |
| | (発想・構想) 住む人の気持ちや機能や美しさを考えて、心豊かな生活環境のアイデアを考えよう。 |
| | (技能) 素材の特徴を生かして心豊かな環境を表現しよう。 |
| | (鑑賞) 自分や友達の作品のよさや生活を豊かにする美術の働きを感じよう。 |

② イメージを言葉に表すことで
自分の考えを明確にする

③ 自分の思いを伝えるため
に効果的な形や色を考えなが
らスケッチを行う

作品をつくる前に

① 「テーマ決め」 あなたが作りたい心地よい環境を決めよう

安らぐ道

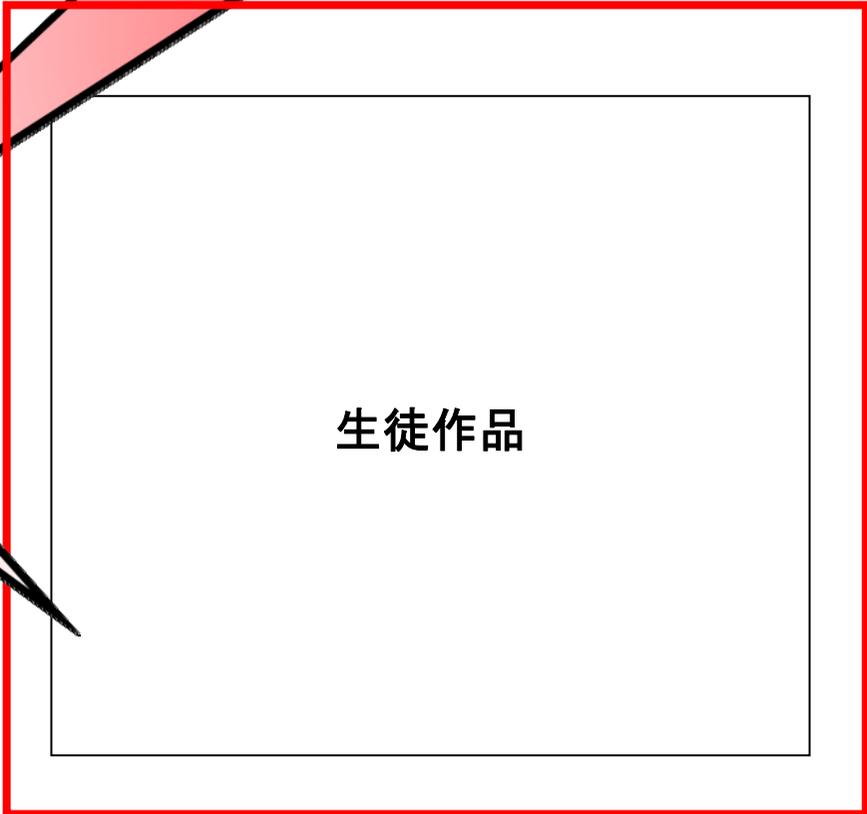
② どんな目的で使う環境にしますか？
〈例〉: 休憩する、遊ぶ、交流する、四季を感じる、散歩する、花を見る、動物・魚・虫を見る

家 美しい学校。平和に勉強できる環境にしてほしい。

③ その環境に人が住む・集う時、心地よくなるような機能を考えてみましょう。

形、色、明るさ、景観、風の流れなど

- ・色は暖かさがあふくように、坂、段差はあまりない。
- ・光は太陽のイメージ。休むことができるようにベンチ等をおく
- ・緑を楽しむような環境。



生徒作品

発想の工夫

「心地のよい住環境をつくろう」
～住まい・自然を含む心地よい住環境のモデル制作～

エスキースカード

2年 2組 36番 氏名

| | |
|--------|---|
| 目標 | (意欲・関心) 身の回りの環境の美しさを味わい、心豊かな環境をつくることを楽しもう。 |
| | (発想・構想) 住む人の気持ちや機能や美しさを考えて、心豊かな生活環境のアイデアを考えよう。 |
| | (技能) 素材の特徴を生かして心豊かな環境を表現しよう。 |
| | (鑑賞) 自分や友達の作品のよさや生活を豊かにする美術の働きを感じよう。 |
| 学習の進め方 | 1時間 オリエンテーション、身近な生活環境を鑑賞する。 |
| | 2～3時間 住む人の気持ちや機能、美しさを考えて心豊かな生活環境のアイデアスケッチを描く。 |
| | 4～7時間 素材の特徴を生かして、心豊かな生活環境を表現する。 |
| | 1時間 自分や友人の作品を鑑賞し合い、作品の中に生活を豊かにする美術の働きの工夫があることを感じよう。 |

作品をつくる前に

① 「テーマ決め」 あなたが作りたい心地よい環境を決めよう。

安らぐ道

② どんな目的で使う環境にしますか？

〈例〉: 休憩する、遊ぶ、交流する、四季を感じる、散歩する、花を見る、動物・魚・虫を見るなど

家に帰る リラックスする
散歩する

③ その環境に人が住む・集う時、心地よくなるような機能を考えてみましょう。

形、色、明るさ、景観、風の流れなど

・色は人が歩きやすいように、坂、段差はあまりない。
・光は太陽のイメージ。休憩もできるようなベンチ等をおく。
・緑を楽しめるような環境。

●心地よい環境を決める

●心地よく感じるための機能を形、色、明るさなどの点から考える

《ワークシートより》

●つくりたい環境 「安らぐ道」

●家に帰る時、リラックスして帰ることができるような道をつくりたい。

●色々な人が歩きやすいように段差はない。

●緑がたくさんあって、落ち着いた色合いがいい。光は明るいイメージ。休憩もできるようにベンチなどを置く。

表現の工夫

① 小学校の造形遊びで身に付けた材料の特徴を基に表現する力をさらに伸ばす



家から材料を
持ち寄る

様々な用具を
使用し、素材を
組み合わせる

材料・用具は
目的や意図に
応じて選ぶ



材料や用具を
用意

表現の工夫

② 住む人の気持ちや機能、心地よく感じる形や色などを考えて表現する

生徒作品

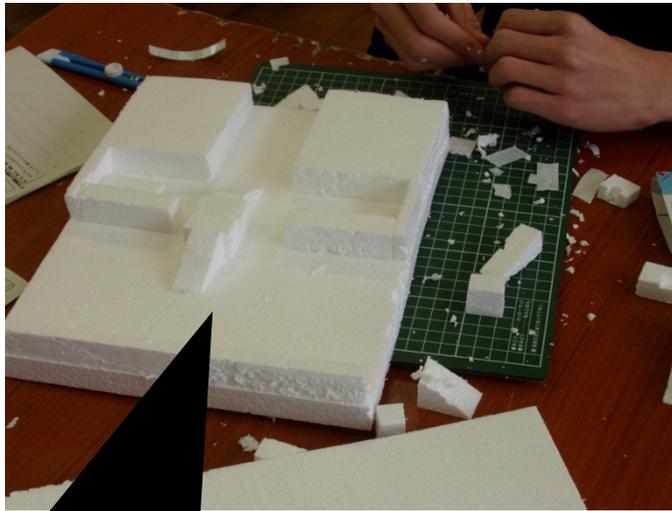
魚を見ながら食事を楽しむレストラン
幻想的な雰囲気です非日常の空間を楽しむために壁や床は黒にしている

生徒作品

読書するだけでなく、森の中にいる動物や花を見て心を癒せる図書館。壁に窓をたくさんつけることで、外を見やすくした。

表現の工夫

③ 楽しみながら、思いを作品に込めやすいように



加工しやすい発泡スチロールや粘土を使用

生徒作品

目的意図に応じて制作できるよう形は限定しない

授業を終えて

- 「何気なく過ごしていましたが、家や道路、お店などの公共のスペース、庭園や公園などの造られた自然は、人が心地よく過ごせるように形や色が考えられてつくられていることに気づきました。」
- 「私の好きな場所が『心地よい』と感じるために、明るさや広さ、材質も考えられていることを知って、美術の影響力を改めて知ることができました。」
- 「これからも部屋の模様替えや配置する時に美術で学んだ色の知識や空間の作り方を役立てたい」

成果と課題

成果

心豊かな生活を創造していく意欲や態度

住む人の気持ち機能、美しさを考えて
発想や構想を練る能力

素材の特徴を生かして心豊かな
生活環境を表現する力

生涯美術を愛好していく心情

●生徒がどんな資質や能力を身に付けてきたか

●中学校ではどんな資質や能力を伸ばせばよいのか



●中学校の授業だけでなく生徒が美術を生涯愛好していくためにどんな授業をつくるか

課題

対象のことを考え、色や形、機能を常に考えさせながら作品をつくる

中学校の美術が「9年間の最後の学びの場」となることを多くの美術科教員が共通認識をし、授業づくりを行う

一過性で終わらせずに、
継続した取り組みを行う